

『津久井町史 文化遺産編』を刊行しました

津久井町史（全8巻）の最終巻『津久井町史 文化遺産編』を刊行しました。

本書は、町史編集委員会文化遺産部会（部会長 薄井和男・神奈川県立歴史博物館長）が、旧津久井町に承継されてきた有形・無形の文化遺産である神社や寺院、石仏、お祭り、古民家、さらには土木・建築などの近代化遺産や産業遺産について、現地を調査した結果を踏まえ、記述したものです。



特 長

旧津久井町の文化遺産について、957点の写真や図、表を利用。

寺社の建築や仏像のほか、涅槃図や天井画など、津久井町内に残される多種多様な絵画作品の実状を明らかにしました。

神社の祭りや寺院の行事、石仏、特に道祖神の近くで行われるどんど焼き行事の実態を豊富な写真や記述で紹介しました。

古民家の状況を、豊富な図面、写真により明らかにしています。

送電鉄塔、砂防堰堤なども含め近代土木遺産の現況を記述しています。また、旧青根小学校、旧青根公民館、蚕業取締所中野支所（旧津久井郷土資料室）といった現存しない近代建築遺産についても、写真や図面等により、実態の保存に努めました。

閲覧・頒布

市内の小中学校等に配布するほか、市内及び近隣自治体の図書館や市内公民館図書室などで閲覧できます。

有償頒布価格は4,060円。市役所行政資料コーナー（本庁・各区役所・各総合事務所 城山総合事務所を除く）、市立公文書館、市立博物館、相模原書店協同組合加盟店（11店舗）において、6月1日（金）から販売を開始します。

『相模原市史 別編』（価格1,690円）及び『同 別編 CD版』（価格920円）、『相模原市史ノート（第15号）』（価格760円）も同時に販売をしています。

問合せ先 市立博物館市史編さん班
電話 042-750-8030

『津久井町史 文化遺産編』作成概要

編さん計画

津久井町史編さん基本方針(策定:平成10年6月。最終改訂:平成24年4月。)

[策定の趣旨]

昭和30年の町村合併当時、人口1万5千人の小さな町も、高度経済成長とともに都市化の波が押し寄せ、平成6年7月には人口が3万人を突破し、水源地という首都圏における重要な役割を担う「水源文化都市」として発展を続けてきた。また、平成18年には相模原市と相模湖町、平成19年には藤野町と城山町との合併という大きな歴史的事実があり、さらに平成22年4月には政令指定都市への移行という新相模原市としての新たな出発をすることとなった。

しかし、こうした時代の大きな変化の中で、私たちの祖先が形作り、現在まで伝えてきている貴重な文化や自然などは、急速に失われつつあるのが現状である。

時代の流れとともに忘れられようとしている先人達の足跡をたどり、引継がれてきている現在の姿を記録として残しその活用を図ることは、新しい時代のための方向を示唆するものとして意義深いものである。平成7年の津久井町制施行40周年を記念してスタートした津久井町史編さん事業は、まさに先に挙げた課題認識のもとに着手されたもので、この事業を継続させていくことが現代における私たちの使命である。

刊行内容・計画

[本編]

巻名		内容	刊行年度
資料編	考古・古代・中世	収集された古文書や遺物・遺構などの資料を時代別・テーマ別に分類し、解説を加え掲載する。	18年度
	近世1		15年度
	近世2		22年度
	近代・現代		20年度
通史編	原始・古代・中世	旧津久井町域の歴史的な変遷過程を、日本史の流れを踏まえながら、時代別に記述する。	27年度
	近世・近代・現代		26年度
自然編		自然の現状を調べた結果や特有の自然を紹介するとともに、身近な環境を考えるきっかけとなる内容を記述する。	24年度
文化遺産編		旧津久井町域に残る、文化遺産を、地域の視点を踏まえ整理・記録し、収録する。	29年度